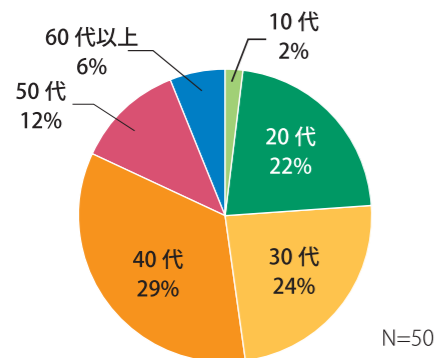


アンケート結果

今年度もコロナ禍に見舞われましたが、来場者数は延べ 260 名でした。そのうち 50 名の方々にアンケートにご回答いただきました。結果の一部をご紹介します。

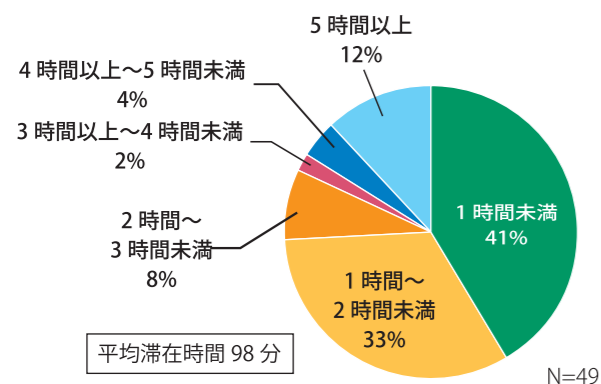
Q. 回答者の年齢



今年も昨年と同様、回答者の 8 割を 40 代以下が占める結果となり、20 代と 40 代の割合が増加しました。

Q. 滞在時間はどのくらいでしたか？

※滞在途中の場合は予定時間を回答。



平均滞在時間は昨年より 15 分増え、98 分となりました。5 時間以上滞在したと回答した人も 1 割以上見られました。

今回の社会実験のアンケート結果 (全体版) は、(一社)市駅 GGP の Web サイト「しえきのいま」のレポート記事にて公開しています。

▶▶ <https://shiekigpp.com/report/>

キャンプ参加者の声

シエキノカワで初めて実施したキャンプ (宿泊体験) の参加者 4 組へのアンケートでは、今回の体験について 3 組が「満足」、1 組が「とても満足」と回答いただき、以下のような感想をいただきました。

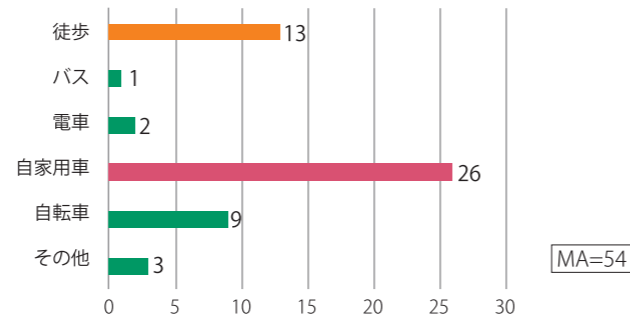
市内で自然に触れ合えて、良い機会だった。

at home でとても良かった。ありがとうございました。

キャンプ体験良かったです。日中のプログラムもほのぼのして楽しかったです。駐車場があればまた参加したいです。キャンプも整備されたら利用したいです。

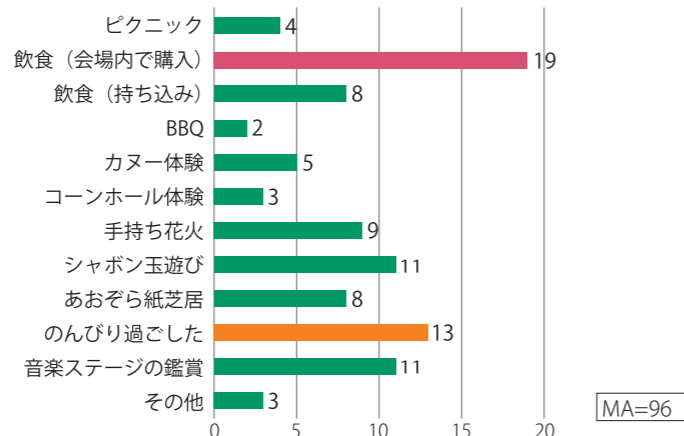
キャンプ体験、本当に良かったです。常設してもらえればまた利用したいと思います。和歌山市内で、近くで気軽に利用できることが嬉しいです。

Q. 今日どの交通手段を使って来られましたか？ (複数回答)



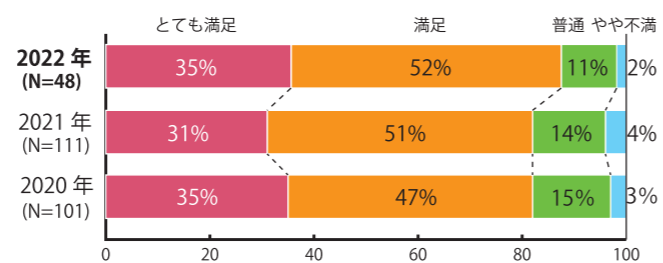
今年も自家用車が最多となり、次いで徒歩、自転車が続き、電車、バスの利用者は少ない結果となりました。

Q. 会場でのどのように過ごしましたか？ (複数回答)



今年も「飲食 (会場内で購入)」が最多で、次いで「のんびり過ごした」が続き、以下は「音楽ステージの鑑賞」「シャボン玉遊び」「手持ち花火」など、さまざまなコンテンツが挙げられました。

Q. 全体の満足度について



今回は「とても満足」「満足」を合わせると 9 割近くとなり、回答数は限られますが、コロナ禍となった 2020 年以降で最も高くなりました。理由として、のんびり過ごせたことに加え、音楽や子どもが遊べる企画が良かったというコメントも見られました。

編集後記

今年の「シエキノカワ」の社会実験では、昨年行われた企画に加え、音楽ステージの復活や初のキャンプ体験を企画し、多くの来場者の方々に河川敷での時間を楽しんでいただくことができました。関係者の皆様、ならびにご協力いただいた全ての皆様に、心より御礼申し上げます。

コロナ禍での行動制限が徐々に緩和されつつありますが、この社会実験を機に、河川敷という身近な自然の中で時間を過ごす楽しさや魅力を市民の皆様知っていただく機会となったなら幸いです。

和歌山大学観光学部永瀬研究室
3 年生 喜納怜香・稲垣ありさ

市駅まちづくり通信 17

まちなかの河川敷で楽しむピクニック & キャンプ

第 17 号 2022.12.28 発行：市駅まちづくり実行会議 編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室



《夕暮れのシエキノカワでピクニック & キャンプ》開催！

今年度の社会実験「市駅「グリーングリーン」プロジェクト」は、「夕暮れのシエキノカワでピクニック & キャンプ」として 10 月 29 日 (土) に開催し、延べ 260 名の方々に多様な河川敷での楽しみ方を体験していただきました。例年実施してきた紀の川を眺めながらくつろげる水辺の縁側エリアやカヌー体験、BBQ などのさまざまなピクニック企画に加え、新たにモニター参加者向けのキャンプ (宿泊体験) も実施しました。キャンプはご家族連れを中心に 4 組の方々が参加され、夜の BBQ や朝食など、河川敷での非日常体験を楽しまれる姿が見られました。さらに、コロナ禍により休止していた音楽ステージを 3 年ぶりに再開し、和歌山大学の学生団体 3 組による演奏により会場が素敵な音楽に包まれました。また今年度も水辺エリアを中心にハロウィン装飾や夕暮れのライトアップ演出を行い、来場者がお子さまやご友人と写真撮影を行う姿が見られました。



子どもまち遊びプログラムを実施しました！

12 月 11 日 (日) にアフタフ・バーバンの連携によるまちあそびプログラム『紀州忍者参上！集まれ！紀の国っ子忍者たち！』が開催され、本願寺鷲森別院や周辺のまちを舞台に、子どもたちと大人や大学生が一緒になって忍者修行を行いました。宝探しの部では、何気ない街並みに“宝”を見つける子どもたちの想像力の豊かさに驚かされ、チャンバラ修行の部では元気いっぱい子どもたちの姿に感化され、大人たちも子ども目線でめいっぱい楽しむことができました。まちを舞台に全身の感覚をフルに使った忍者修行は、子どもたちにとって貴重な経験となったのではないのでしょうか。



子どもまち遊びプログラムの実施内容については、(一社)市駅 GGP の Web サイト「しえきのいま」のレポート記事にて公開しています。
▶▶ <https://shiekigpp.com/report/>

水辺のピクニックエリア



水辺の縁側

今年も川の近くに、縁側に見立てた畳ベンチを中心にハンモックやデッキチェアを設置し、憩いの空間を設けました。畳ベンチでは来場者の方々が紀の川の景色を眺めながら軽食を楽しむなど、家族や友人とゆったりとした時間を過ごす様子が見られました。さらに川寄りに置かれたハンモックやデッキチェアでは、子どもから大人まで多くの方が心地よい風に揺られながらくつろぐ様子が見られました。



フォトブース

芝生広場にはハロウィンをイメージしたティピーテントを設置し、フォトスポットとして提供しました。ガーランドやフォトアイテムも設置することで、子どもたちの楽しそうな笑顔を撮影していただくことができました。



光の演出

夕暮れには、広場内に様々な光の演出を施しました。畳ベンチの中央にジャック・オ・ランタンをイメージした瓶のライトや紅葉を置いた他、テントやパラソルテーブルにもライトや手作りのランタン等を設置し、会場が優しい光に包まれました。ライトで「シエキノカワ」の文字が浮かび上がったサインボードの前では多くの来場者が記念撮影する様子が見られました。



キャンプ (宿泊体験)



芝生エリアの一角では、初の試みとして1泊2日のキャンプ(宿泊体験)を行いました。社会実験として、普段は宿泊できない河川敷でのキャンプ体験のモニター参加者を募り、4組の方々にご参加いただきました。

参加者は夕方からキャンプサイトに持ち込んだテントを張り、夜にはBBQを楽しみながら家族や友人たちとの和やかな時間を過ごす姿が見られました。翌朝は河川敷の景色を眺めながら朝食をとったり、水辺のハンモックでくつろいだり、爽やかな朝のひと時を過ごされていました。



アクティビティ



カヌー体験

エディーカヌースクールさんのご協力による毎年人気のカヌー体験は、親子連れを中心に20組40名の方々にご参加いただきました。今回は例年以上に風が強かったようですが、皆さんがんばってカヌーを漕ぎながら、水上からの紀の川の眺めを楽しまれました。



コーンホール体験

昨年も好評をいただいたコーンホールを今年も実施し、幅広い世代の方々に体験していただきました。何度も参加してくれた子どもたちもおり、笑顔で遊ぶ姿が印象的でした。



シャボン玉体験・あおぞら紙芝居

今年も(一社)市駅GGPが運営する和歌山地域子育て支援拠点「育ちのえき くすの木」のスタッフにより、子ども向けの紙芝居やシャボン玉体験を実施し、多くの子どもたちが目を輝かせながら楽しむ姿が見られました。



手持ち花火

日没を迎える頃には、芝生広場にて手持ち花火を行いました。花火の無料提供が行われ、多くの来場者がご家族や友人と一緒に幻想的な時間を楽しまれました。終盤には仕掛け花火に点火し、迫力あるフィナーレを飾りました。



音楽ステージ



新型コロナウイルスの流行により長らく開催を断念していた音楽ステージが3年ぶりに復活し、和歌山大学の学生団体である吹奏楽団、ジャズ研究会 Uncle Jam、アカペラサークル和音の3団体による演奏が行われました。2020年以降は学生団体にとっても観客を前に演奏する

場が限られてきましたが、開放的な河川敷での貴重なステージ演奏の機会になったようです。来場者も素敵な音楽の生演奏に思わず心を奪われ、ステージ周りだけでなく会場内のさまざまな場所から、演奏に耳を傾ける様子が見られました。



飲食・出店

フード・BBQ

(一社)市駅GGPによる軽食や飲み物の販売と、恒例の手ぶらで参加できるBBQ(事前予約制)を実施しました。



感染症対策を講じながら実施した河川敷でのBBQは、今年も参加者の方々に喜んでいただくことができました。

農産物・特産品販売

今年はまちなか百姓養成塾と和歌山大学観光学部の広川LPP(地域連携プログラム)、同学部の学生団体「棚田ふぁむ」により、活動地域でとれた新米や新鮮な野菜、



薬草茶、ジャム等の特産品の販売ブースを設け、県内産の農産物の魅力を来場者に発信していただきました。